

研究成果の刊行に関する一覧表

令和2年度
書籍

書籍名	刊行年月日	刊行書店名	執筆者氏名
婦人科がんサバイバーのヘルスケアガイドブック	2020/4/10	診断と治療社	野澤桂子 増田美加
Precision Medicine	2020/4	北隆館	野澤桂子

雑誌

雑誌名	刊行年月日	刊行書店名	執筆者氏名	巻数	論文名
Springer Link	2020/5/15	Springer Link	Kazumi Nishino, Yutaka Fujiwara, Yuichiro Ohe, Keiko Nozawa, Yoshio Kiyohara, et al.	Supportive Care in Cancer (2020) https://doi.org/10.1007/s00520-020-05765-7	Results of the non-small cell lung cancer part of a phase III, open-label, randomized trial evaluating topical corticosteroid therapy for facial acneiform dermatitis induced by EGFR inhibitors: stepwise rank down from potent corticosteroid (FAEISS study, NCCH-1512)
The journal of dermatology	2021/3/8	The journal of dermatology	Keita Tsutsui, Katsuko Kikuchi, Keiko Nozawa, et al.	Online ahead of print https://doi.org/10.1111/1346-8138.15836	Efficacy and safety of topical benzoyl peroxide for prolonged acneiform eruptions induced by cetuximab and panitumumab: A multicenter, phase II trial
がん看護	2021/3	南江堂	野澤桂子	26(3)	わが国におけるアピアランスケアのあゆみ
看護技術	2021/2	メヂカルフレンド社	野澤桂子	67(2)	外見の変化が不安な患者とのコミュニケーション 特集1 アピアランスケア
看護技術	2021/2/20	メヂカルフレンド社	藤間勝子	67(2)	爪の変色・変形、 手足症候群
看護技術	2021/2/20	メヂカルフレンド社	飯野京子 綿貫成明 長岡波子	67(2)	支持療法としてのアピアランスケア—学際的な活動と看護の専門性を中心に—

国立病院看護研究学会誌	2020/9/25	国立病院看護研究学会	野澤桂子 藤間勝子	16(1)	がん治療に伴う外見変化と対処行動；男女別部位別罹患率に対応した 1,035名の患者対象調査から
-------------	-----------	------------	--------------	-------	---

研究成果による知的財産権の出願・取得状況：知的財産の内容，種類，番号，出願年月日，取得年月日，権利者：特になし

研究により得られた成果の今後の活用・提供

本年度に得られた結果の一部は，2021年に実施される4学会で発表する予定である。また，「アピアランスケアガイドライン2021年版」は，2021年4月以降，外部評価委員会及びパブリックコメントの段階を経て，秋に刊行予定である。本研究により，代表的ながん治療に伴い生じる様々な外見の症状に対し，その治療法から日常整容行為までを，患者のQOLという視点から連続性を有するものとして捉えたガイドラインが完成し，患者支援に生かされる。

令和3年度 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
藤間勝子	アピアランスケア up to Date	藤間勝子(編)	がん看護(Vo 1.27 No.3)	南江堂	東京	2022年	
		日本サポ ーティブ学会 編	がん治療に おけるアピ アランスケ アガイドラ イン2021年 版	金原出版	東京	2021年	
野澤桂子	アピアランスケア とは	藤間勝子(編)	がん看護27 (3)	南江堂	東京	2022	223-238
野澤桂子	脱毛	増田慎三 (編)	改訂第2版 乳がん薬物 療法副作用 マネジメント プロのコ ツ	メジカル ビュー社	東京	2021	290-293

飯野京子, 長岡波子	D放射線療法における看護, 系統看護学講座別巻	小松浩子 編集	がん看護学 第15版	医学書院	東京	2022.1	p281-294
河野文子 (監訳), 島津太一 (監訳), 中山健夫 (監修), 内富庸介 (監修)			実装科学における質的手法	保健医療福祉における普及と実装科学研究会	東京	2021	40p.

研究成果による知的財産権の出願・取得状況：知的財産の内容，種類，番号，出願年月日，取得年月日，権利者：特になし

研究により得られた成果の今後の活用・提供

21年10月に刊行された「アピアランスケアガイドライン2021年版」については、2023年にはMindsガイドラインライブラリーにて公開される予定であり、広く患者支援に活かされることとなる。研修効果が確認されたe-learningプログラムについては、今後実装に向けリリース方法等検討する。アピアランスケア導入の阻害要因促進要因の検討及び、患者対象調査の結果については、院内・地域連携モデルの作成に反映させていくほか、患者支援ツールの開発にも活用する。

令和4年度 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
藤間勝子	AYA世代男性のアピアランスケアについて	清水千佳子 森田達也 小澤美和	AYA世代のがんサポーターケア・緩和ケア	診断と治療社	東京	2022	225-229
齊藤光江、飯野京子、尾関理恵	II 各論 5. 消化器 C. 悪心・嘔吐	日本がんサポーターケア学会	がん支持医療テキストブックサポーターケアとサバイバーシップ	金原出版	東京	2022	180-185

菊地克子、山崎直也、藤間勝子、長岡波子、飯野京子	II 各論 2 皮膚 C. ア ピアランス ケア	日本がんサ ポートイ ブケア学 会	がん支持医療 テキストブ ックサポー テイブケア とサバ イバーシ ップ	金原出版	東京	2022	151-185
野澤桂子	チームで行 う頭頸部 診療の多 職種連携	JOHNS編 集委員会	JOHNS	東京医学 社	東京	2022年 12月	P1630-16 33
野澤桂子	脱毛メデ ィカルス タッフの 関わり	日本がんサ ポートイ ブケア学 会	がん支持療 法テキスト ブック	JASCC	東京	2022年 10月	P143

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
藤間勝子	アピアランスケア 患者さんのふだんの 生活を支えるために	ナーシング	42巻14号	91-92	2022
藤間勝子	スキンケア攻めの ケア、守りのケアを考 える	美容皮膚医学	5巻4号	80-86	2022
Keiko Nozawa, Shoko Toma, Chikako Shimizu	Distress and impact s on daily life from appearance changes due to cancer treat ment: A survey of 1, 034 patients in Japa n.	Global Health & Medicine	5 (1)	54-61	Epub 2022 February 25.

KENJI SEKIGUCHI, Minako Sumi, Anneyuko Saito, Sadamoto Zenda, Satoko Arahira, Keiko Iino, Masayuki Okumura, Fujimi Kawai, <u>Keiko Nozawa</u>	The effectiveness of moisturizer on acute radiation-induced dermatitis in breast cancer patients	Breast Cancer	30(1)	2-12	Epub 2022 Oct 18.
堀口沙希, 飯野京子, 長岡波子	がん薬物療法中の若年成人期がん患者の心身の苦痛と自己効力感との関連	国立病院看護研究学会誌	18 (1)	2-13	2022.
大黒えりか, 飯野京子, 杉山文乃, 長岡波子	慢性心不全患者のセルフモニタリングと病気の不確かさとの関連	国立病院看護研究学会誌	18 (1)	24-36	2022
Kenji Sekiguchi, Minako Sumi, Anneyuko Saito, Sadamoto Zenda, Satoko Arahira, <u>Keiko Iino</u> , Masayuki Okumura, Fujimi Kawai, <u>Keiko Nozawa</u>	The effectiveness of moisturizer on acute radiation-induced dermatitis in breast cancer patients: a systematic review and meta-analysis	Breast Cancer	30(1)	2-12	2023
Zenda S, Arai Y, Sugawara S, Inaba Y, Hashimoto K, Yamamoto K, Saigusa Y, Kawaguchi T, Shimada S, Yokoyama M, Miyaji T, Okano T, Nakamura N, Kobayashi E, Takagi T, Matsumoto Y, Uchitomi Y, Sone M	Protocol for a confirmatory trial of the effectiveness and safety of palliative arterial embolization for painful bone metastases	BMC Cancer	23(1)	109	2023

Endo M, Kawahara S, Sato T, Tokunaga M, Hara T, Mawatari T, Kawano T, Zenda S, Miyaji T, Shimokawa M, Sakamoto S, Takano T, Miyake M, Aono H, Nakashima Y; RETHINK study group	Protocol for the RETHINK study: a randomised, double-blind, parallel-group, non-inferiority clinical trial comparing acetaminophen and NSAIDs for treatment of chronic pain in elderly patients with osteoarthritis of the hip and knee	BMJ Open	13(2)	e068220	2023
Matsuda Y, Yamaguchi T, Matsumoto Y, Ishiki H, Usui Y, Kakoi J, Suzuki K, Matsunuma R, Mori M, Watanabe H, Zenda S	Research policy in supportive care and palliative care for cancer dyspnea. Matsuda Y, Yamaguchi T, Matsumoto Y, Ishiki H, Usui Y, Kakoi J, Suzuki K, Matsunuma R, Mori M, Watanabe H, Zenda S	Jpn J Clin Oncol	52(3)	260-265	2022
Yokota T, Ueno T, Soga Y, Ishiki H, Uezono Y, Mori T, Zenda S, Uchitomi Y	J-SUPPORT research policy for oral mucositis associated with cancer treatment	Cancer Med	11(24)	4816-4829	2022
藤間勝子, 飯野京子, 綿貫成明, 長岡波子, 野澤桂子, 清水千佳子	アピアランスケアに関するe-learning研修が医療者に与える影響 e-learning研修プログラム効果の検討	日本がん看護学会学術集会	37回	351	2023

研究成果による知的財産権の出願・取得状況：知的財産の内容，種類，番号，出願年月日，取得年月日，権利者：特になし

研究により得られた成果の今後の活用・提供

本研究で検証された，医療機関にアピアランスケアを導入する際の阻害，促進要因の分析については，令和5年度に実施されるアピアランスケアモデル事業について，実施施設でのより効果的なアピアランスケアの効果的な情報提供・相談支援作りに活用する。また，アピアランスケアe-learningプログラムについては，令和5年度に実施されるアピアランスケアモデル事業実施施設の教育研修プログラムとして提供される。その後はがん治療を行う医療者に向け一般公開される計画である。